

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] ビジネス実務		[授業形態] 講義		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 社会福祉科 1年 前期 後期 通年			[授業回数・時間数] 26回 52時間		
[担当教員および実務経験] 星野 和幸					
[授業の目的] 一般企業、福祉施設等で勤務する際に必要となる社会人としての意識、組織の構造、言葉遣い等のマナーや接遇、事務作業についての知識を学ぶ。知識習得の証明として、秘書技能検定3級の取得を目指す。					
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。 検定前には 秘書検定3級過去問題の答練を行い、検定問題に慣れる。					
[授業の到達目標] ・ 企業団体等の組織に所属する場合の意識や役割を理解できる。 ・ 日常会話レベルで敬語を使用することができる。 ・ 企業団体での基本的な接遇、慶事弔事のマナーを説明できる。 ・ ビジネス文書について、例を見ながら作成することができる。 ・ 事務・ファイリング作業で使用する文具機器類の名称・用途を答えることができる。 ・ 郵便(特殊取扱含)等の通信手段について、利用方法や長短所を答えることができる。					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) 到達目標の修得状況を測る ・ 筆記試験による期末考查により算出する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献] ・ 藤井充子『この1冊で決める!!秘書検定2・3級合格教本』新星出版社、2017年 ・ 実務技能検定協会『秘書検定3級過去問題集2023年版』早稲田教育出版、2023年					
[備考]					

[授業計画(内容)]

- 1 オリエンテーション、職場と人間関係
- 2 敬語の種類
- 3 正しい敬語の使い方、接遇の表現
- 4 上手な話し方・聞き方、命令・指示の受け方、忠告・注意の受け方
- 5 苦情対応と断り方、わかりやすい報告と説明、依頼と説得のしかた
- 6 接遇の心構え、受付と取り次ぎ、受付と取り次ぎのケーススタディ
- 7 来客対応の常識（案内、席次、茶菓提供、見送り）、電話対応(受け方かけ方)
- 8 慶事・弔事に関する業務とマナー、贈答のしきたり、上書きと水引の結び方
- 9 会議の基礎知識、会議の準備、会議直前から会議後までの業務
- 10 ビジネス文書の基礎知識、社内文書の作成
- 11 社外文書の作成、社外文書・社交文書のきまりごと・慣用表現
- 12 メモのとり方、グラフの書き方
- 13 文書の受信・発信、メール・FAX送受信、郵便物の発信、「秘」扱い文書
- 14 ファイリングの基礎知識、名刺の整理、資料の収集と整理、予定表の使い方、室内環境、オフィスレイアウト、オフィス機器・事務用品
- 15 秘書の資質
- 16～17 職務知識
- 18～19 一般知識
- 20～24 秘書検定3級過去問題答練
- 25 秘書検定3級の答合わせ、授業まとめ
- 26 終末考査

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] コミュニケーション		[授業形態] 演習・講義		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 社会福祉科 1 年 前期 後期 通年			[授業回数・時間数] 30回 60時間		
[担当教員および実務経験] 櫛野 友則					
[授業の目的] コミュニケーションは対人関係の基本であることから、講義や演習を通して、その知識や技術を学び、自分の考えを表現する方法、良好な人間関係の築き方などのスキルを身に付けることを目的とする。また、良好なコミュニケーションの環境について学び、福祉コミュニケーションの観点から、対象者の理解等を深め、実践できるようになることを目的とする。					
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、主としてグループワーク等のアクティブラーニング手法を使ったコミュニケーション演習を実施し、内容を修得する。また、演習の前後にテキストやプリントを用いた講義で補足を行うことで、内容の理解を促進する。					
[授業の到達目標] (前期) ・コミュニケーションの意義を踏まえ、集団における良好な人間関係の構築に努めることができる。 ・他者の発言を積極的に傾聴することができる。 (後期) ・自分自身が発言する際、相手の気持ちや場面に応じて発する言葉を選択することができる。 ・他者とのコミュニケーションにおいて、自分自身の長所・短所を分析することができる。					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 査点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、各単元で課した課題を提出させ、それを総合的に評価する。 ・ 平常点 (25%) ・ 指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献] なし					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	オリエンテーションとアイスブレイク（自己紹介）
2	前期コミュニケーションレク（自己と他者の価値観）
3	前期コミュニケーションレク（非言語的コミュニケーション）
4	前期コミュニケーションレク（チームビルディング①）
5	前期コミュニケーションレク（チームビルディング②）
6	傾聴の基本①（アクティブリスニング）
7	傾聴の基本②（コミュニケーションの意義）
8	傾聴の基本③（笑顔とうなずき）
9	傾聴の基本④（拡張話法）
10	聴き方と人間関係①（人間関係を意識した傾聴）
11	聴き方と人間関係②（価値観の共有）
12	聴き方と人間関係③（解決策の導き方）
13	聴き方と人間関係④（他者理解）
14	聴き方と人間関係⑤（ジレンマ）
15	ビジネスコミュニケーション
16	後期コミュニケーションレク（交渉の技術①）
17	後期コミュニケーションレク（交渉の技術②）
18	後期コミュニケーションレク（チームビルディング③）
19	後期コミュニケーションレク（チームビルディング④）
20	後期コミュニケーションレク（チームビルディング⑤）
21	対話の基本①（他者理解）
22	対話の基本②（ほめ方）
23	対話の基本③（好かれる話）
24	対話の基本④（他者を巻き込む話し方）
25	対話の基本⑤（話題の共有）
26	話し方と人間関係①（相手の感情に寄り添う話し方）
27	話し方と人間関係②（問題の共有化）
28	話し方と人間関係③（励ましのリスク）
29	総合演習①
30	総合演習②

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] W o r d 実習		[授業形態] 実習		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 社会福祉科 1 年 前期 後期 通年			[授業回数・時間数] 2 8 回 5 6 時間		
[担当教員および実務経験] 織田島 順子 一般企業にて営業事務、社会保険事務に従事し、書類作成などを担当。					
[授業の目的] 企業団体の事務作業で必須であるパソコンの操作について、一般的な文書処理ソフトウェアとしてマイクロソフト社の『W o r d 』の操作を習得する。操作習得の証明として、日検ワープロ検定の取得を目指す。					
[授業の方法および概要] ・ W i n d o w s の基本的操作方法について操作しながら習得する。 ・ W o r d の操作方法についての習得。段階を踏み操作しながら習得する。 ・ 文書作成練習の実施により操作を習熟する。（検定対策も兼ねる）					
[授業の到達目標] ・ W i n d o w s の基本的な操作ができる。 ・ W o r d について、以下の操作ができる。 ・ 文書データの読み込み・保存(新規保存、上書き保存、保存先を変えた保存)、印刷 ・ 文書のページ設定（行数、1 行あたりの文字数） ・ 文字入力（漢字変換）、文字および文字列の修飾 ・ 作表、図表の挿入					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 実技試験（文書作成）により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協力しながらお互いの技能向上を目指している。					
[使用テキスト・参考文献] ・ 実教出版編集部編『3 0 時間でマスター W o r d 2 0 1 3』実教出版、2014年 ・ 日本情報処理検定協会編『日本語ワープロ検定試験 過去問題集』日本情報処理検定協会、2022年					
[備考] 日検ワープロ検定の受験級は学生が自身の能力に合わせた級を選択する。					

[授業計画(内容)]	
1	Windows の概要および操作の基本、タイピングの基礎
2	Word の操作①（文字入力、漢字変換）
3	Word の操作②（タイピング練習①）
4	Word の操作③（タイピング練習②）
5	Word の操作④（改行、カット&ペースト）
6	Word の操作⑤（タイピング練習③）
7	ワープロ検定 3 級過去問題の試行
8	Word の操作⑥（タイピング練習④）
9	Word の操作⑦（表の作成①検定 3 級レベル）
10	Word の操作⑧（表の作成②検定 2 級レベル①）
11	Word の操作⑨（表の作成②検定 2 級レベル②）
12	Word の操作⑩（表内文字の折り返し、罫線種の変更）
13	ワープロ検定準 2 級過去問題の試行
14	過去問題答練（第131回）
15	過去問題答練（第130回）
16	過去問題答練（第129回）
17	過去問題答練（第128回）
18	過去問題答練（第127回）
19	過去問題答練（第126回）
20	過去問題答練（第125回）
21	過去問題答練（第124回）
22	過去問題答練（第123回）
23	過去問題答練（第122回）
24	過去問題答練（第121回）
25	過去問題答練（第120回）
26	過去問題答練（第119回）
27	過去問題答練（第118回）
28	過去問題答練（第117回）

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
キャリアデザイン I		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 1 年 前期 後期 通年			1 5 回 3 0 時間		
[担当教員および実務経験]					
田家 愛 一般企業にて販売促進・広報業務、就職支援業務に従事					
[授業の目的]					
自分の得意不得意を理解し、自分が望むキャリアを自ら切り拓いていくために、情を収集して分析する力、他者に伝える力、課題を発見し解決する力を養う。その中で社会への関心を深め、働くことのやりがいや職種理解を深めることで、キャリアプランの実現に向けた選択行動がとれるようになることを目的とする。 また、演習をとおして社会で必要不可欠なビジネスマナーを修得し、他者を受容しながら自分を理解してもらうアサーティブなコミュニケーション能力を身につける。					
[授業の方法および概要]					
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義・演習を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
1. キャリアデザインの重要性を理解できる 2. 自分自身を客観的にとらえ、自分の得意不得意を理解できる 3. これまでの社会環境、これからの変化について説明できる 4. 社会で必要なビジネスマナーを実践できる 5. 情報を収集し分析し、他者に伝え、課題を発見し解決することができる 6. アサーティブなコミュニケーションを実践できる					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 働き方の哲学 (ディスカヴァー・トゥエンティワン、村山昇、2018 年) ・ 知らないとはズカシイおとなのビジネスマナー (日本実業出版社、西出博子) ・ アサーション・トレーニング (金子書房、平木典子、2009 年)					
[備考]					
なし					

【授業計画(内容)】	
1	・ オリエンテーション ・ キャリアを考える必要性、時代背景 ・ キャリアデザインとは
2	・ 今日のトピックス ・ キャリアレインボウ、キャリアビジョン

	・4年間のスケジュール ・価値観ワーク
3	・今日のトピックス ・ビジネスマナー（遅刻、欠席） ・電話対応課題
4	・今日のトピックス ・ビジネスマナー（メールのやり取り）
5	・今日のトピックス ・ビジネスマナー（訪問時のマナー、名刺）
6	・スーツ講座
7	・今日のトピックス ・ケーススタディ（訪問時のマナー、クレームの対応、アサーション）
8	・今日のトピックス ・社会人に求められる能力 ・学生と社会人の違い
9	・今日のトピックス ・コミュニケーション能力とは
10	・今日のトピックス ・気づきのワーク（10年後の生活） ・ストレスポイントのワーク（もっと〇〇を考える）
11	・今日のトピックス ・課題解決思考
12	・今日のトピックス ・高校までの振り返り
13	・今日のトピックス ・職業興味（VRTカード） ・社会人インタビュー① 課題説明
14	・今日のトピックス ・社会人インタビュー② 発表
15	・前期期末考査

授 業 計 画 (シラバス)

【科目名】 キャリアデザインⅠ		【授業形態】 講義		必修 選択	
【対象学科・学年・時期】 社会福祉科 1 年 前期 後期 通年			【授業回数・時間数】 1 5 回 3 0 時間		
【担当教員および実務経験】 田家 愛 一般企業にて販売促進・広報業務、就職支援業務に従事					
【授業の目的】 自分の得意不得意を理解し、自分が望むキャリアを自ら切り拓いていくために、情を収集して分析する力、他者に伝える力、課題を発見し解決する力を養う。その中で社会への関心を深め、働くことのやりがいや職種理解を深めることで、キャリアプランの実現に向けた選択行動がとれるようになることを目的とする。 また、演習をとおして社会で必要不可欠なビジネスマナーを修得し、他者を受容しながら自分を理解してもらうアサーティブなコミュニケーション能力を身につける。					
【授業の方法および概要】 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義・演習を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
【授業の到達目標】 1. キャリアデザインの重要性を理解できる 2. 自分自身を客観的にとらえ、自分の得意不得意を理解できる 3. これまでの社会環境、これからの変化について説明できる 4. 社会で必要なビジネスマナーを実践できる 5. 情報を収集し分析し、他者に伝え、課題を発見し解決することができる 6. アサーティブなコミュニケーションを実践できる					
【成績評価の方法と基準】 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
【使用テキスト・参考文献】 ・ 働き方の哲学（ディスカヴァー・トゥエンティワン、村山昇、2018 年） ・ 知らないとはズカシイおとなのビジネスマナー（日本実業出版社、西出博子） ・ アサーション・トレーニング（金子書房、平木典子、2009 年）					
【備考】 なし					

【授業計画(内容)】 1 ・ 社会人インタビュー③ 取材 クラスメイトの調べた職種について調べる 2 ・ 社会人インタビュー④ 発表 ・ 仕事理解① 課題説明 自分が気になる職場を選ぶ 職場について調べる	
--	--

3	・仕事理解② 職場調べ、アポイント
	・ビジネスマナー（アポイントの取り方、封筒の書き方、お礼状の書き方）
4	・仕事理解③ 取材実施
5	・仕事理解④ お礼状作成 取材内容をまとめ、動画にする
6	・仕事理解⑤ 動画まとめ①
7	・仕事理解⑥ 動画まとめ②
8	・仕事理解⑦ 動画まとめ③
9	・仕事理解⑧ 発表
10	・仕事理解⑨ 動画修正、アンケート作成
11	・傾聴トレーニング①
12	・傾聴トレーニング②
13	・自己理解① 人生すごろく①
14	・自己理解② 人生すごろく②
15	・後期期末考査

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
PBL実習		実習			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 1 年 前期 後期 通年			3 2 回 6 4 時間		
[担当教員および実務経験]					
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事) 和久井 久光 (高齢者施設で介護・相談業務、高齢者相談支援事業所で相談支援・地域支援業務に従事)					
[授業の目的]					
1. 地域や施設の現状や課題を知り、その課題について学生自らが主体的に取り組む力を育む。 2. チーム活動を通じて、協調性とリーダーシップの重要性を学び、リーダーとなれる人材に成長する。 3. 講義では学ぶことのできない社会の現状や課題を知り、現状への問題意識や批判的な視点を身に付け、社会性を確立する。					
[授業の方法および概要]					
1. チーム活動を円滑に実施するために、ファシリテーションについて学ぶ。 2. 地域住民や施設職員の思いに共感し、それぞれの現状と課題の聴き取りを行う。 3. 現状のアセスメントや良質な話し合いを通じて行動計画を学生主体で作成する。 4. アクションプランを当事者の方々と共有し、可能な限り協働で実施し、課題解決に向かう体験をする。 5. 実施後の振り返りを通して効果測定を行う。合わせて、他チームとも共有する。					
[授業の到達目標]					
1. ファシリテーションの概要を説明できる。 2. 関係する人たちの状況や思いを的確に聴き取ることができる。 3. 聴き取った内容を整理し、課題解決に向かう方向性について話し合える。 4. 関係する人たちと協力して活動することができる。 5. 活動の結果を振り返り、まとめることができる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累計考査を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。					

・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
[使用テキスト・参考文献]
[備考]
・実習スケジュールは、チームにより異なる可能性あり。

[授業計画(内容)]	
1～2	オリエンテーション（授業の目的、自己探求、チーム編成・課題の選定、ファシリテーション体験）
3～4	実習先とのマッチング（担当者からの聴き取り、取り組み課題を確定）
5～6	課題解決案・行動目標作成
7～8	行動計画共有ミーティング（実習内容を確定）
9～12	ワクワク地域実習①（行動計画の実施①）
13～16	ワクワク地域実習②（行動計画の実施②）
17～18	中間振り返り（①②の内容の振り返り、意見交換、計画修正など）
19～22	ワクワク地域実習③（行動計画の実施③）
23～26	ワクワク地域実習④（行動計画の実施④）
27～30	ワクワク地域実習⑤（行動計画の実施⑤）
31～32	実習振り返り・全体発表

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
PBL実習（後期）		実習			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 1 年 前期 後期 通年			3 2 回 6 4 時間		
[担当教員および実務経験]					
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事) 和久井 久光 (高齢者施設で介護・相談業務、高齢者相談支援事業所で相談支援・地域支援業務に従事)					
[授業の目的]					
1. 地域や施設の現状や課題を知り、その課題について学生自らが主体的に取り組む力を育む。 2. チーム活動を通じて、協調性とリーダーシップの重要性を学び、リーダーとなれる人材に成長する。 3. 講義では学ぶことのできない社会の現状や課題を知り、現状への問題意識や批判的な視点を身に付け、社会性を確立する。					
[授業の方法および概要]					
1. 地域住民や施設職員の思いに共感し、それぞれの現状と課題の聴き取りを行う。 2. 現状のアセスメントや良質な話し合いを通じて行動計画を学生主体で作成する。 3. アクションプランを当事者の方々と共有し、可能な限り協働で実施し、課題解決に向かう体験をする。 4. 実施後の振り返りを通して効果測定を行う。合わせて、他チームとも共有する。					
[授業の到達目標]					
1. 関係する人たちの状況や思いを的確に聴き取ることができる。 2. 聴き取った内容を整理し、課題解決に向かう方向性について話し合える。 3. 関係する人たちと協力して活動することができる。 4. 活動の結果を振り返り、まとめることができる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累計考查を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					

[備考]

- ・実習スケジュールは、チームにより異なる可能性あり。

[授業計画(内容)]

1～2	オリエンテーション（前期の復習、新チーム編成・課題の設定）
3～4	実習先とのマッチング（担当者からの聴き取り、取り組み課題を確定）
5～6	課題解決案・行動目標作成
7～8	行動計画共有ミーティング（実習内容を確定）
9～12	ワクワク地域実習①（行動計画の実施①）
13～16	ワクワク地域実習②（行動計画の実施②）
17～18	中間振り返り（①②の内容の振り返り、意見交換、計画修正など）
19～22	ワクワク地域実習③（行動計画の実施③）
23～26	ワクワク地域実習④（行動計画の実施④）
27～30	ワクワク地域実習⑤（行動計画の実施⑤）
31～32	実習振り返り・全体発表

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 社会福祉の基礎		[授業形態] 講義		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 社会福祉科 1年 前期 後期 通年			[授業回数・時間数] 15回 30時間		
[担当教員および実務経験] 圓山 里子 障害当事者団体（NPO法人）にて職場介助者及び事務局スタッフとして勤務。障害者サポートの市委託事業において事業開設スタッフとして勤務。					
[授業の目的] 社会福祉を各分野の概観からながめるのではなく、各分野に通じる基盤を「つかむ」ことによって、今後、社会福祉各科目を学ぶ上での基礎をつくる。					
[授業の方法および概要] テキスト及びプリントを中心に講義を行う。期間中間で1度「確認テスト」を実施し、知識の定着及び期末考査対策へと結びつける。					
[授業の到達目標] ・ 社会福祉は社会福祉実践（援助論）と社会福祉政策（政策論）から構成されていることを理解する。 ・ 現代社会における生活を支える仕組み（家族・市場・社会サービス）のなかで、社会福祉はどのように位置づけられるのかを理解する。 ・ 福祉国家形成の歴史及び日本の社会福祉のあゆみを理解する。 ・ 社会福祉政策の運営の基本的な仕組みや考え方を、対象・方法・提供主体の側面から理解する。					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点（75%） 到達目標の修得状況を測るために筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点（10%） 授業に積極的に参加し周囲と強調しながら自らの向上を図っている。 ・ 出欠点（15%） 欠席する毎に点数を引いていく。					
[使用テキスト・参考文献] ・ 稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ 第3版』有斐閣、2019年（初版2008年）					
[備考] なし					

[授業計画(内容)]	
1	社会福祉政策と社会福祉実践、社会政策とは何か
2	社会福祉の補充性と固有性
3	福祉国家の形成①
4	福祉国家の形成②
5	福祉国家の形成③
6	福祉国家はどこへ行くのか
7	日本の社会福祉のあゆみ①
8	日本の社会福祉のあゆみ②
9	確認テストと中間まとめ
10	社会福祉の対象と社会的必要性（ニーズ）
11	社会福祉の行財政
12	社会福祉の供給体制
13	社会福祉の担い手
14	まとめ
15	考査

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 高齢者の福祉		[授業形態] 講義		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 社会福祉科 1 年 前期 後期 通年			[授業回数・時間数] 1 4 回 2 8 時間		
[担当教員および実務経験] 砂井 一哉 特別養護老人ホーム及びケアハウスにおいて施設長（園長）として勤務					
[授業の目的] 高齢者の身体的・精神的傾向とそれを取り巻く環境を理解することを通じて、高齢者と関わること及び支援するために必要な基礎的知識を学ぶ。					
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク・演習等も交えながら、内容の理解を深める。また確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標] 1. 介護保険制度がなぜ必要なのか説明できる。 2. 老化に伴う心身の変化及び疾病に関する基本的知識を覚える。 3. 高齢者の支援を行う際の基本的理念（自立支援、ノーマライゼーション等）について説明することができる。 4. 高齢者との関わり方（コミュニケーション）の基本的知識を身に付ける。 5. 認知症ケア、看取りケアについてその概要を把握できる。					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と強調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献] 黒澤貞夫等編集『介護職員初任者研修テキスト【第1巻】介護のしごとの基礎（第4版）』中央法規出版、2023					
[備考] なし					

[授業計画(内容)]	
1	オリエンテーション
2	高齢者制度の理解①
3	高齢者制度の理解②
4	高齢者制度の理解③
5	老化の理解
6	確認テスト
7	老化の理解
8	介護における尊厳の保持・自立支援
9	介護の基本①
10	介護の基本②
11	認知症の理解
12	介護におけるコミュニケーション技術
13	看取りの理解
14	期末考査

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
心理学の基礎		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 1 年 前期 後期 通年			1 5 回 3 0 時間		
[担当教員および実務経験]					
井畑 友佳					
[授業の目的]					
「心理学とはどのような学問なのか?」「どのような種類の心理学があるのか?」「どのようなことに役立つのか?」など日常生活における身近な疑問を通して、人間の心の働きやしぐみについての全体像を学ぶ。この授業では、数多くある心理学の分野を広く学んでいくことを目的とする。					
[授業の方法および概要]					
授業内容への関心を高めるため、授業においてはコミュニケーションを取りながら学生自身の経験などを踏まえて進めていく。具体的には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。さらに、内容を深く理解するためにグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いる。加えて、到達目標の修得度を測定するために確認テストを実施する。					
[授業の到達目標]					
・心理学を実学と捉え、心理学諸理論を説明できる。 ・心理学の成り立ちや人の心の基本的な仕組みと働きについて具体例を挙げながら説明できる。 ・心理学を学び理解したことを実生活に応用できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点 (75%) 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業内に行うワークシートについて積極的に取り組む。 ・ 確認テストの振り返り課題を期限までに提出する。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と関わりながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
齊藤勇編『図説心理学入門 [第2版]』誠信書房、2005年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	授業ガイダンス 心理学の語源について（プシュケーの物語から学ぶ）
2	心理学の歴史（世界と日本のあゆみの違い） 有名な心理学者について 図と地、意味的反転図形、群化の法則について
3	空間知覚、恒常性の意味 注意、カクテルパーティ効果、マスキング現象について
4	欲求と動機づけについて 欲求の種類、マズローの欲求階層説について 原因帰属理論について
5	フラストレーションとコンフリクトについて コンフリクトの事例を考える
6	ジェームズランゲ説とキャノンバード説 シャクターの情動の二要因説（つり橋実験から読み解く）
7	ストレスについて ストレスの対処法について
8	古典的条件づけについて「パブロフの犬の実験」から学ぶ
9	アルバート坊やの実験から「汎化」を学ぶ
10	オペラント条件づけについて「スキナーボックス」から学ぶ
11	学習性無力について 学習性無力の事例を踏まえて考える
12	試行錯誤学習と洞察学習について 記憶の種類について
13	フロイトの心の構造について ユングとロジャーズの心の構造について
14	臨床心理学について（心理アセスメントについて）
15	カウンセリング技法について

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] レクリエーション		[授業形態] 講義と演習		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 社会福祉科 1年 前期 後期 通年			[授業回数・時間数] 14回 28時間		
[担当教員および実務経験] 早川 武志 高齢者施設にて介護職員・介護支援専門員として勤務					
[授業の目的] 介護や障害のサービスを利用して生活をしている方々にとって、余暇活動を充実させることが生活の質の向上へとつながること、また、身体機能の向上にもつながり得ることを理解することができる。 利用者ニーズを把握し、余暇活動を充実させる適切な方法を身につけることができる。					
[授業の方法および概要] 実例を基とした高齢者施設での利用者および職員の様子についての講義を通して理解する。実際に施設で生活している利用者と手紙やオンラインなどの手法を使い、コミュニケーションを図る方法を学ぶ。					
[授業の到達目標] 余暇活動の充実が高齢者施設で生活する高齢者の生活に与える影響を体験する。 感染対策という制限下における余暇活動充実の方法を身につける。					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通基準による絶対評価を行う。 考查点（75%）・平常点（15%）・出席点（10%）					
[使用テキスト・参考文献] なし					
[備考]					

【授業計画(内容)】	
1	みなさん、高齢者施設ってどんなイメージ？
2	このみちを選んでくれてありがとう！だから仲間を知ろう（早川も含めて）
3	レクリエーションの本質を知ろう
4	レクリエーションの本質をグループで協力して発表しよう。 オリジナル手紙入れ（封筒）を作成しよう（オリジナルですので、自分で調べて作成してください。）
5	期末考查の答えを教えます！みんなで意味を調べてください。でも、条件があり

	ます。その意味を理解することです。
6	アイスブレイクを理解してグループで構成してみよう
7	高齢者が昔馴染みのある歌を手話で表現してみよう
8	レクリエーション計画を作成しよう
9	学校内でリモートレクリエーションを体験してみよう
10	施設のご利用者とオンラインでレクリエーションを実践する。みなさんいよいよ本番ですよ！グループの練習の成果をみせよ！①
11	施設のご利用者とオンラインでレクリエーションを実践する。みなさんいよいよ本番ですよ！グループの練習の成果をみせよ！②
12	施設のご利用者とオンラインでレクリエーションを実践する。みなさんいよいよ本番ですよ！グループの練習の成果をみせよ！③
13	グループ発表（ふりかえり）
14	期末考査

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
手話		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 1年 前期 後期 通年			20回 40時間		
[担当教員および実務経験]					
白倉 啓子					
[授業の目的]					
手話技能検定4級の取得を目指す。また言語の1つである手話の基礎知識を習得することで、コミュニケーション能力の幅を広げ、福祉の現場でも活用できるようにする。					
[授業の方法および概要]					
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストや模擬試験を行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
・ 指文字50音の意味が理解でき、表現することができる。 ・ 指文字で自分の名前を表すことができる。 ・ 都道府県の手話の意味が理解でき、表現することができる。 ・ 6級レベルの基本単語を理解し、表現できる。 (あいさつ・天候・疑問・数字・曜日・日・週・年・人・家族・色・方角・感情・動作) ・ 5級レベルの基本単語を理解し、表現できる。 (質問と時間・自然に関する単語と家族・仕事・趣味・程度を示す単語・基本動詞・形容詞) ・ 5級レベルの例文を理解し、読みとることができる。 ・ 4級レベルの単語を理解し、表現できる。 (人間・食べ物・動物・生活・スポーツ・感情・趣味・乗り物・形容詞・副詞・社会・施設・数・地名・動詞) ・ 模擬試験で8割の正答率を出すことができる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ NPO手話技能検定協会著『改訂版 手話技能検定公式テキスト3・4級』日本能率協会マネジメントセンター、2010年					

〔備考〕

2023年9月4日（月）手話技能検定4級受験

〔授業計画（内容）〕

1	手話検定について／指文字（50音）／都道府県の手話①
2	都道府県の手話②
3	6級レベルの基本単語①（あいさつ・天候・疑問）
4	6級レベルの基本単語②（数字・曜日・日・週・年・人・家族・色・方角）
5	6級レベルの基本単語③（感情・動作） 5級レベルの基本単語①（質問と時間）
6	5級レベルの基本単語②（自然に関する単語と家族・仕事・趣味・程度）
7	5級レベルの基本単語③（基本動詞・形容詞）
8	4級レベルの単語と例文（単語1：人間・食べ物・動物）
9	4級レベルの単語と例文（単語2：生活・スポーツ・感情・趣味・乗り物）
10	4級レベルの単語と例文（単語3：形容詞・副詞）
11	4級レベルの単語と例文（単語4：社会・施設・数）
12	4級レベルの単語と例文（単語5：地名、単語6：動詞）
13	模擬試験（第1回）
14	模擬試験（第2回）
15	模擬試験（第3回）
16	模擬試験（第4回）
17	模擬試験（第5回）
18	模擬試験（第6回）
19	模擬試験（第7回）
20	期末考査

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
ソーシャルワークの基礎		講義・演習			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 1年 前期 後期 通年			30回 60時間		
[担当教員および実務経験]					
櫛野 友則					
[授業の目的]					
社会福祉士としての業務であるソーシャルワークについて、その定義や歴史、理念、倫理について学ぶことを目的とする。また、ソーシャルワークの方法と技術の基本に関しては、講義に加え、演習を通して実践できるようになることを目的とする。					
[授業の方法および概要]					
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
・ ソーシャルワーカーの資格と仕事について説明できる。 ・ ソーシャルワークの定義と歴史について説明できる。 ・ ソーシャルワークの理念と倫理について説明できる。 ・ ソーシャルワークの方法と技術について説明できる。 ・ 権利擁護及び多職種連携について説明できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 稲沢公一、岩崎晋也編「社会福祉をつかむ」有斐閣、2019年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	ソーシャルワークとは何か
2	ソーシャルワークの要件
3	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義
4	社会福祉士の倫理綱領
5	ケースワークとバイステックの7原則
6	相談援助過程
7	ケースワーク演習①
8	ケースワーク演習②
9	グループワーク
10	グループワーク演習
11	コミュニティワーク
12	コミュニティワーク演習①
13	コミュニティワーク演習②
14	前期総合復習
15	前期期末試験
16	ソーシャルワークの実践モデル
17	生活モデルに基づくソーシャルワーク
18	生活モデルに基づくソーシャルワーク演習①
19	生活モデルに基づくソーシャルワーク演習②
20	社会モデルに基づくソーシャルワーク
21	社会モデルに基づくソーシャルワーク演習①
22	社会モデルに基づくソーシャルワーク演習②
23	ストレングスモデルに基づくソーシャルワーク
24	ストレングスモデルに基づくソーシャルワーク演習①
25	ストレングスモデルに基づくソーシャルワーク演習②
26	エンパワメントアプローチに基づくソーシャルワーク
27	エンパワメントアプローチに基づくソーシャルワーク演習①
28	エンパワメントアプローチに基づくソーシャルワーク演習②
29	後期総合復習
30	後期期末試験

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]	[授業形態]	必修 選択
福祉体験	実習	
[対象学科・学年・時期]	[授業回数・時間数]	
社会福祉科 1 年 前期	20 回 40 時間	
[担当教員および実務経験]		
渡辺 康子 病院・高齢者施設において介護職員として 11.5 年勤務		
[授業の目的]		
福祉施設を訪問し、実際に利用者に関わる中で、福祉施設の概要・実態を直接的に学び、ソーシャルワーカーに必要な知識・技術・実践力を身に付けることを目的とする。高齢者福祉施設での体験を行うことにより、施設種別の違いを理解し、自身の就職先・進路を考えるきっかけづくりをする。		
[授業の方法および概要]		
実際に福祉施設を訪問する中で、到達目標に沿って、施設の概要・実態、利用者の状況を理解する。また、訪問の前後に計画・報告（振り返り）を行うことで、自身の到達度の把握・理解を促進する。		
[授業の到達目標]		
・体験先の福祉施設の概要を説明できる。 ・体験先の福祉施設の利用者の状況（心身状態、生活環境等）を説明できる。 ・体験先の利用者 1 名を選定して、ソーシャルワーカーとしての関わり方やケアの方法等を提案できる。		
[成績評価の方法と基準]		
教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点 (75%) ・施設体験前後に計画書・報告書を提出し、その内容を得点化する。 ・ 平常点 (10%) 授業に積極的に参加し周囲と強調しながら自らの向上を図っている。 ・ 出欠点 (15%) 欠席する毎に点数を引いていく。		
[使用テキスト・参考文献]		
なし		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
1	前期オリエンテーション（体験先の情報把握、計画書・報告書の作成方法等）
2	〃
3	福祉体験訪問①（施設概要の理解（グループホーム））
4	〃
5	福祉体験訪問②（施設職員の理解（グループホーム））
6	〃
7	福祉体験訪問③（ソーシャルワーカーの役割の理解（グループホーム））
8	〃
9	中間まとめ
10	〃
11	福祉体験訪問④（施設種類による概要の違いの理解（デイサービス））
12	〃
13	福祉体験訪問⑤（施設種類による概要の違いの理解（ショートステイ））
14	〃
15	福祉体験訪問⑥（最初に訪問した施設を再度訪問し学びの確認）
16	〃
17	まとめ（報告会準備）
18	〃
19	福祉体験報告会（高齢者福祉施設）
20	〃

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]	[授業形態]	必修 選択
福祉体験	実習	
[対象学科・学年・時期]	[授業回数・時間数]	
社会福祉科 1 年 後期	20 回 40 時間	
[担当教員および実務経験]		
渡辺 康子 病院・高齢者施設において介護職員として 11.5 年勤務		
[授業の目的]		
福祉施設を訪問し、実際に利用者に関わる中で、福祉施設の概要・実態を直接的に学び、ソーシャルワーカーに必要な知識・技術・実践力を身に付けることを目的とする。障害者福祉施設での体験を行うことにより、施設種別の違いを理解し、自身の就職先・進路を考えるきっかけづくりをする。		
[授業の方法および概要]		
実際に福祉施設を訪問する中で、到達目標に沿って、施設の概要・実態、利用者の状況を理解する。また、訪問の前後に計画・報告（振り返り）を行うことで、自身の到達度の把握・理解を促進する。		
[授業の到達目標]		
・体験先の福祉施設の概要を説明できる。 ・体験先の福祉施設の利用者の状況（心身状態、生活環境等）を説明できる。 ・体験先の利用者 1 名を選定して、ソーシャルワーカーとしての関わり方やケアの方法等を提案できる。		
[成績評価の方法と基準]		
教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・福祉体験前後に計画書・報告書を提出し、その内容を得点化する。 ・ 平常点 (10%) 授業に積極的に参加し周囲と強調しながら自らの向上を図っている。 ・ 出欠点 (15%) 欠席する毎に点数を引いていく。		
[使用テキスト・参考文献]		
なし		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
1	後期オリエンテーション（体験先の情報把握、計画書・報告書の作成方法等）
2	
3	福祉体験訪問①（障害者福祉施設（身体障害者施設））
4	
5	福祉体験訪問②（障害者福祉施設（精神・知的障害者施設））
6	
7	福祉体験訪問③（障害者福祉施設（放課後等デイサービス））
8	
9	中間まとめ
10	
11	福祉体験訪問④（障害者福祉施設（就労移行支援事業所））
12	
13	福祉体験訪問⑤（障害者福祉施設（就労継続支援 A 型事業所））
14	
15	福祉体験訪問⑥（障害者福祉施設（就労継続支援 B 型事業所））
16	
17	まとめ（報告会準備）
18	〃
19	福祉体験報告会（障害者福祉施設）
20	〃

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
障がい者の福祉		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 1年 前期 後期 通年			15回 30時間		
[担当教員および実務経験]					
圓山 里子					
障害当事者団体（NPO法人）にて職場介助者及び事務局スタッフとして勤務。障害者サポートの市委託事業において事業開設スタッフとして勤務。四年制大学の社会福祉士養成コースにおいて専任教員として勤務。					
[授業の目的]					
障害の社会モデルを障害者福祉の理念や概念が生まれた過程を辿りつつ、その理念の実現を目指す日本の障がい者福祉に関わる制度・施策を学ぶ。					
[授業の方法および概要]					
授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
1. 障害の社会モデルの視点から障害者権利条約及び障害者差別解消法に規定されている合理的配慮について関係を説明できる。					
2. ノーマライゼーションの定義を説明できる。					
3. 障害者の生活支援における留意点をあげることができる。					
4. 障害者福祉の歴史的展開における基本的事項を列挙することができる。					
5. 障害者総合支援法に関わるサービスの基本的事項を覚えることができる。					
6. 障害者の生活を支える施策・制度を列挙することができる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考査点 (75%)					
・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。					
・ 平常点 (25%)					
・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
山下幸子・竹端寛・尾崎剛志・圓山里子,『新・基礎からの社会福祉④ 障害者福祉 第3版』,ミネルヴァ書房,2020年.					
[備考]					
なし					

[授業計画(内容)]	
1	「障害」の社会モデルと合理的配慮
2	国際生活機能分類と保健・医療・福祉の専門職
3	障害者の生活実態～障害当事者から学ぶ～
4	様々な機能障害の理解と生活支援の留意点
5	障害者福祉の理念①ノーマライゼーション
6	障害者福祉の理念②自立生活運動
7	障害者福祉の理念③エンパワメントとソーシャルワーク
8	障害者福祉の歴史的展開①：戦後の制度史
9	障害者福祉の歴史的展開②：戦後の障害者運動
10	障害者福祉の歴史的展開と障害者権利条約、及びバリアフリー、教育
11	障害者総合支援法の概要
12	障害者総合支援法の給付内容
13	障害者の生活を支える施策①：基本法、障害種別、虐待防止法
14	障害者の生活を支える施策②：雇用と所得保障
15	まとめ
	考査

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
児童・家庭の福祉		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 1年 前期 後期 通年			15回 30時間		
[担当教員および実務経験]					
星野 和幸					
[授業の目的]					
児童福祉の基礎知識を習得し、大学のレポート学習及び国家試験の土台を形成する。 また児童の置かれているさまざまな問題について考える機会をつくる。					
[授業の方法および概要]					
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
・ 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境を説明できる。 ・ 子どもの権利条約について理解し、その特徴を伝えることができる。 ・ 児童福祉法の制定の経緯・児童福祉の理念・児童福祉の対象を説明できる ・ 児童福祉法に規定されている児童福祉施設の内容を説明できる。 ・ 児童虐待の定義、現状、対応について理解できる。 ・ 障害児の現状、及びその支援体制について理解できる。 ・ 社会的養護について実施体制と今後の方向性について理解できる。 ・ 児童の貧困の現状について理解し、その対策について説明できる。 ・ 児童相談所の役割について理解できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 『社会福祉学習双書』編集委員会編著『社会福祉学習双書2023 第5巻 児童・家庭福祉』全国社会福祉協議会、2023年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	児童家庭福祉の理念と基本的理解
2	子どもの人権・権利保障
3	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境
4	児童家庭福祉制度における関係機関と専門職の役割
5	母子保健
6	子育て支援・保育・児童健全育成
7	スクールソーシャルワーカー
8	子どもと家庭にかかわる貧困、女性の福祉
9	社会的養護
10	児童虐待への対応
11	児童にかかわる様々な法体制
12	児童虐待への対応
13	障害児福祉
14	授業のまとめ
15	期末試験

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
生涯発達心理学		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 1 年 前期 後期 通年			1 5 回 3 0 時間		
[担当教員および実務経験]					
久住 雅史					
[授業の目的]					
「人が発達する」ということや発達する期間、発達の要因となるものについて考えを深める。また、子ども、大人、高齢者といった年齢区分ごとの理解に留まらず「生涯」という視点を活かして「これまで・現在・これからのつながり」と「積み重ね」をキーワードとして考えながら人の発達について深く学ぶ。					
[授業の方法および概要]					
授業内容への関心を高めるため、授業においてはコミュニケーションを取りながら学生自身の経験なども踏まえて進めていく。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を習得する。さらに、内容を深く理解するために必要に応じてグループワーク等のアクティブラーニングの手法を用いる。加えて、到達目標の習得度合いを測定するために確認テストを実施する。					
[授業の到達目標]					
・ 発達の過程の中で、認知機能・感情・自己・社会性・対人関係などの発達の諸側面がどのように変化していくか説明することができる。					
・ 幼児期、青年期、老年期といった発達の各時期の特徴を簡潔に説明することができる。					
・ 発達心理学で用いられる基本的な概念、用語を理解し、自分および周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して具体的に説明することができる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考查点 (75%)					
到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。					
・ 平常点 (25%)					
・ 授業内に行うワークシートについて積極的に取り組む。					
・ 確認テストの振り返り課題を期限までに提出する。					
・ 授業に積極的に参加し、周囲と関わりながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
山岸明子著『こころの旅 発達心理学入門』新曜社、2011年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	導入 発達とは何か？ 発達のイメージ作り、人生グラフの作成
2	第1章 発達とは何か、発達心理学とは何か① 発達を学ぶ意義と発達とは？
3	第1章 発達とは何か、発達心理学とは何か② 発達段階と発達課題について
4	第2章 発達を規定するもの① 発達の規定因について
5	第2章 発達を規定するもの② 発達研究
6	第3章 乳児期—母子関係の成立① 生理的早産
7	第3章 乳児期—母子関係の成立② 母子間の相互作用
8	第4章 幼児期—自立の時期 自我の芽生えについて理解する
9	第5章 乳幼児期—その様々な発達① ことばの発達について理解する
10	第5章 乳幼児期—その様々な発達② ピアジェの発達段階から理解する
11	第6章 児童期 認知の発達について、ギャングエイジ、自我の発達
12	第7章 青年期 青年期に起こる変化がわかる、自我同一性
13	第8章 成人期、そして老年期① 成人期の発達課題の特徴
14	第8章 成人期、そして老年期② 老年期の特徴について理解する
15	発達障害について 発達障害の種類と特徴を知る

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
カウンセリング		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 1 年 前期 後期 通年			3 0 回 6 0 時間		
[担当教員および実務経験]					
白倉 啓子					
[授業の目的]					
カウンセリングの基礎知識およびピアヘルパーについての知識を十分に持ち、日本教育カウンセラー協会が実施する認定試験に合格し、ピアヘルパーの資格取得を目的とする。また、講義や実技の学習を通して得た知識を日常生活の中で活かせるように考えていくことも目的の 1 つとする。					
[授業の方法および概要]					
授業内容への関心を高めるため、相互学習の形式を取りながら進めていく。授業時には、到達目標に沿ってテキストやワークブック、プリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を習得する。さらに、内容を深く理解するために必要に応じてグループワーク等のアクティブラーニングの手法を用いる。具体的には、現場を意識した相談援助の方法や話し方の技法を学んでいく。					
[授業の到達目標]					
・ピアヘルパーについての知識を十分に持つことができる。 ・ピアヘルパーの活動を行う意志を持ち、実行できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業内に行うワークシートについて積極的に取り組む。 ・ 確認テストや模擬試験の振り返り課題を期限までに提出する。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と関わりながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 日本教育カウンセラー協会編『【新版】ピアヘルパーハンドブック』図書文化社、2023 年 ・ 日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーワークブック』図書文化社、2002年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	カウンセリングについての大まかな理解 ピアヘルパー合格への3か条
2	構成的グループエンカウンターについて① (エンカウターのねらい)
3	構成的グループエンカウンターについて② (基礎的なエクササイズ、エンカウンター実施の留意点)
4	カウンセリングの定義と略史と必要性
5	カウンセリングの種類 (目的別・対象別・方法別・トピック別・領域別・理論別)
6	ピアヘルピングの関係領域 (カウンセリング・教育・心理療法・人事、労務管理・キャンパスポリス)
7	ピアヘルピングのプロセス (リレーションづくり、問題の把握、問題の解決)
8	ピアヘルパーのパーソナリティ (人好き、共感性、自己開示、自分の人生をもつ)
9	カウンセリングの同行 (折衷主義、育てるカウンセリング、自己開示の容認、仲間同士のカウンセリング)
10	ピアヘルピングの言語的技法① (受容、繰り返し、明確化)
11	ピアヘルピングの言語的技法② (支持、質問)
12	ピアヘルピングの非言語的技法 (視線・表情・ジェスチャー・身体接触・声の質量・服装・座り方・時間厳守・歩き方・言葉づかい・あいさつ)
13	対話上の諸問題への対処法 (面接の切りあげ方、私的感情、話が進展しないとき、抵抗、沈黙)
14	問題への対処法 (リファラー、ケースワーク、コンサルテーション、ピアスーパービジョン、具申、個別ヘルピング)
15	ピアヘルパーの心構え (「なおそうとするな、わかろうとせよ」「言葉尻をつかまえるな、感情をつかめ」「行動だけを見るな、ビリーフをつかめ」)
16	ヘルピングスキルの上達法 (スキルを向上させる方法、さらなるスキルアップを図る方法)
17	ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点
18	学業領域

	(授業がつまらない、授業についていけない)
19	進路領域 (進路の意味、自己肯定感の強弱)
20	友人領域 (心理的離乳、ギブ・アンド・テイク、自己開示)
21	グループ領域① (グループとは何か、グループのまとめ方)
22	グループ領域② (グループの動かし方、リーダーの資質と留意点)
22	関係修復領域 (両方の了承、両方の勝利感、完全な和解を期待しないこと)
23	心理領域 (考え方を検討する、状況を変える、事実の確認、自己理解のために)
24	これまでのまとめ (ワークブックで重要ポイントを確認し、問題に取り組む)
25	文章問題対策 (問題のポイントを理解し、解答作りを行う)
26	模擬試験①
27	模擬試験② (模擬試験①の復習を含む)
28	模擬試験③ (模擬試験②の復習を含む)
29	模擬試験④ (模擬試験③の復習を含む)、期末考査対策
30	期末考査

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] E x c e l 実習		[授業形態] 実習		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 社会福祉科 2年 前期 後期 通年			[授業回数・時間数] 29回 58時間		
[担当教員および実務経験] 織田島 順子 一般企業にて営業事務、社会保険事務に従事し、書類作成などを担当。					
[授業の目的] 企業団体の事務作業で必須であるパソコンの操作について、一般的な表計算ソフトウェアとしてマイクロソフト社の『E x c e l』の操作を習得する。操作習得の証明として、日検情報処理検定（表計算）の取得を目指す。					
[授業の方法および概要] ・ E x c e l の操作方法についての習得。段階を踏み操作しながら習得する。 ・ 作表練習の実施により操作を習熟する。（検定対策も兼ねる）					
[授業の到達目標] E x c e l について、以下の操作ができる。 ・ データの読み込み・保存(新規保存、上書き保存) ・ 文字の入力、文字属性の変更 ・ 表の作成 ・ セルの書式設定(表示形式の変更、罫線) ・ 計算式の入力(四則演算) ・ セル番地の絶対参照 ・ 関数式の入力(表計算検定2級出題範囲の関数) ・ グラフの作成(棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ) ・ 印刷					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、実技試験（関数や文字・表の修飾を含めた表の作成）により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協力しながらお互いの技能向上を目指している。					
[使用テキスト・参考文献] ・ 実教出版編集部編『30時間でマスター Excel2013』実教出版、2014年 ・ 日本情報処理検定協会編『情報処理技能検定試験 表計算 模擬問題集』日本情報処理検					

定協会、2023年
[備考] ・日検情報処理検定の受験級は学生が自身の能力に合わせた級を選択する。

[授業計画(内容)]	
コマ数	授業の内容
1	E x c e l の概要、画面説明、起動・終了方法
2	E x c e l の操作①（データ入力、オートフィル、セルの編集）
3	E x c e l の操作②（簡単な関数、簡単なグラフ作成、印刷）
4	E x c e l の操作③（絶対参照・相対参照、文字属性）
5	E x c e l の操作④（関数[数値計算関数、統計関数]の使用）
6	E x c e l の操作⑤（条件分岐[i f 関数]）
7	E x c e l の操作⑥（グラフの作成①棒グラフ、線グラフ、円グラフ）
8	E x c e l の操作⑦（グラフの作成②3 D グラフ、ドーナツグラフ他）
9	E x c e l の操作⑧（高度な関数[vlookup、rank、eq]）
10	E x c e l の操作⑨（データベース、フィルタ、検索・置換）
11	E x c e l の操作⑩（図やイラストの挿入、ワードアート）
12	E x c e l の操作⑪（文字列操作関数、シート間計算）
13	過去問題答練（第132回）
14	過去問題答練（第131回）
15	過去問題答練（第130回）
16	過去問題答練（第129回）
17	過去問題答練（第128回）
18	過去問題答練（第127回）
19	過去問題答練（第126回）
20	過去問題答練（第125回）
21	過去問題答練（第124回）
22	過去問題答練（第123回）
23	過去問題答練（第122回）
24	過去問題答練（第121回）
25	過去問題答練（第120回）
26	過去問題答練（第119回）
27	過去問題答練（第118回）
28	E x c e l の操作⑫（データベース作成）
29	期末考査

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] PowerPoint実習		[授業形態] 実習	必修 選択
[対象学科・学年・時期] 社会福祉科 2年 前期 後期 通年		[授業回数・時間数] 30回 60時間	
[担当教員および実務経験] 織田島 順子 一般企業にて営業事務、社会保険事務に従事し、書類作成などを担当。			
[授業の目的] 企業団体の事務作業で必須であるパソコンの操作について、一般的なプレゼンテーションソフトウェアとしてマイクロソフト社の『Powerpoint』の操作を習得する。また、プレゼンテーションにおけるスピーチの技術についても習得する。			
[授業の方法および概要] ・Powerpointの操作方法についての習得。 ・課題の発表を行うことにより話し方とプレゼンテーション時の振る舞いを習得する。			
[授業の到達目標] ・基本的なスライド作成が行える。（書式設定、文字・図表の挿入、スライドの編集） ・「読ませる」スライドではなく「一目で理解できる」スライドの作成ができる ・作成したスライドをフルスクリーンでプロジェクタに投影できる。 ・聴き手が理解しやすい話し方・内容で発表（プレゼンテーション）ができる ・グループで作業を分担して発表ができる。			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・考查点(75%) ・到達目標の修得状況を測るために、実技試験（課題発表）により期末考查を実施する。 ・平常点(25%) ・事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・授業に積極的に参加し、周囲と協力しながらお互いの技能向上を目指している。			
[使用テキスト・参考文献] ・実教出版編集部編『30時間でマスター プレゼンテーション+Powerpoint2013』実教出版、2014年			
[備考]			

【授業計画(内容)】

コマ数	授業の内容
1	PowerPointの概要、画面説明、起動・終了、
2	PowerPointの操作①（簡単なスライド作成・投影）
3	PowerPointの操作②（スライドの配色、文字の書式設定）
4	PowerPointの操作③（グラフ、表の挿入）
5	PowerPointの操作④（図形・イラスト・画像の挿入）
6	PowerPointの操作⑤（マスタースライドの設定）
7	PowerPointの操作⑥（アニメーション）
8	PowerPointの操作⑦（リハーサル、資料印刷）
9～11	課題 1 制作（グループ課題「福祉の制度について」）
12	課題 1 発表
13～16	課題 2 制作（個人発表「好きなものを勧める」）
17～20	課題 2 発表
21～25	期末課題制作（個人発表「i f で学んだことからテーマを決めて発表」）
26～30	期末課題発表

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] キャリアデザインⅡ		[授業形態] 講義		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 社会福祉科 2 年 前期 後期 通年			[授業回数・時間数] 1 5 回 3 0 時間		
[担当教員および実務経験] 田家 愛 (一般企業にて販売促進・広報業務、就職支援業務に従事)					
[授業の目的] 多様な価値観が存在する変化の激しい社会において、自分のキャリアを主体的に考え、自分の得意不得意を理解し、自分が作成したキャリアプランの実現に向けて行動するための力を養うことを目的とする。 自分が目指す分野の現状を理解し、具体的にイメージするとともに、他者に伝えることができる。 また、演習を通して、社会で必要不可欠なビジネスマナーを修得し、他者を受容しながら自分を理解してもらうアサーティブなコミュニケーション能力を身につける。					
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義・演習を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標] 1. 自分自身を客観的にとらえ、自分の得意不得意を理解できる 2. これまでの社会環境、これからの変化について説明できる 3. 社会で必要なビジネスマナーを実践できる 4. アサーティブなコミュニケーションを実践できる					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献] ・ 働き方の哲学 (ディスカヴァー・トゥエンティワン、村山昇、2018 年) ・ 知らないとはずかしいおとなのビジネスマナー (日本実業出版社、西出博子) ・ アサーション・トレーニング (金子書房、平木典子、2009 年)					
[備考] なし					

[授業計画(内容)]	
コマ数	授業の内容
1	・オリエンテーション ・キャリアデザイン I の振り返り、キャリアビジョンの見直し ・ラジオCM作成①
2	・ラジオCM作成②
3	・ラジオCM作成③
4～7	・傾聴トレーニング
8	・職場で求められる能力 (Will、Can、Must)
9～14	・社会福祉士が活躍する職場、働き方 (職種調べ、発表)
15	・期末考査

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
キャリアデザインⅡ		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 2年 前期 後期 通年			15回 30時間		
[担当教員および実務経験]					
田家 愛 (一般企業にて販売促進・広報業務、就職支援業務に従事)					
[授業の目的]					
多様な価値観が存在する変化の激しい社会において、自分のキャリアを主体的に考え、自分の得意不得意を理解し、自分が作成したキャリアプランの実現に向けて行動するための力を養うことを目的とする。 自分が目指す分野の現状を理解し、具体的にイメージするとともに、他者に伝えることができる。 また、演習を通して、社会で必要不可欠なビジネスマナーを修得し、他者を受容しながら自分を理解してもらうアサーティブなコミュニケーション能力を身につける。					
[授業の方法および概要]					
到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義・演習を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
1. 自分自身を客観的にとらえ、自分の得意不得意を理解できる 2. これまでの社会環境、これからの変化について説明できる 3. 社会で必要なビジネスマナーを実践できる 4. アサーティブなコミュニケーションを実践できる					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(10%) 授業に積極的に参加し周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 ・ 出欠点(15%) 欠席する毎に点数を引いていく。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 働き方の哲学(ディスカヴァー・トゥエンティワン、村山昇、2018年) ・ 知らないとはずかしいおとなのビジネスマナー(日本実業出版社、西出博子) ・ アサーション・トレーニング(金子書房、平木典子、2009年)					
[備考]					
なし					

[授業計画(内容)]	
コマ数	授業の内容
1	キャリアを考える必要性と時代背景
2～11	SSTプログラム開発
12	セルフメンタルヘルス、アサーショントレーニング
13	レジリエンス
14	キャリアビジョンと価値観、職業興味の変化（VRT）
15	期末考査

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
ソーシャルワーク演習		演習			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 2年 前期 後期 通年			15回 30時間		
[担当教員および実務経験]					
坂井 篤史 (障害者就労支援施設 就労支援員 7年2ヶ月、共同生活援助 サービス管理責任者 1年8ヶ月)					
[授業の目的]					
ソーシャルワーク実習における理論や専門知識を学習する。内容はソーシャルワークの倫理綱領、相談援助技術、ソーシャルワークの展開過程など、ソーシャルワーク実習の事前準備に沿うものとする。					
[授業の方法および概要]					
授業ごとに到達目標を設定し、授業の方向性を明確にする。アクティブラーニングを中心にグループワーク、ロールプレイなどを実施する。期末考査前に講義のまとめの時間を設け、全体の振り返りを行う。知識を体感することを中心とし、細かい振り返りを実施することによってソーシャルワーク実習で必要となる知識を固着化させる。					
[授業の到達目標]					
1) 社会福祉士に求められる役割、視点、モデル、アプローチなどソーシャルワークの枠組みが説明できる。 2) 社会福祉専門職としての「自己」について、自己覚知を通して客観的な視点から説明できる。 3) 社会福祉の倫理、価値規範について説明できる。 4) 言語的、非言語的コミュニケーションの基礎を身につけ、基本的な面接技術を学習の場で実践できる。 5) 相談援助の過程について事例を通して具体的にイメージすることができ、説明できる。 6) 相談援助の基盤と専門性について説明できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成					

講座 [共通科目] 13ソーシャルワーク演習 (共通科目)』中央法規出版、2021年
[備考]

[授業計画(内容)]	
1	オリエンテーション、社会福祉士の役割
2	自己覚知
3	日本ソーシャルワーカー連盟の倫理綱領
4	人と環境の交互作用
5	面接技法
6	ソーシャルワークの原理・原則
7	ソーシャルワークの発展過程① (ケース発見とエンゲージメント)
8	ソーシャルワークの発展過程② (フェイスシート、アセスメント表)
9	ソーシャルワークの発展過程③ (エコマップ・ジェノグラム)
10	ソーシャルワークの発展過程④ (ニーズ整理表)
11	ソーシャルワークの発展過程⑤ (支援計画の作成)
12	ソーシャルワークの発展過程⑥ (モニタリング)
13	ソーシャルワークの発展過程⑦⑧ (再アセスメント・終結)
14	まとめ
15	期末考査

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
PBL実習		実習			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科2年 前期 後期 通年			32回 64時間		
[担当教員および実務経験]					
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)					
和久井 久光 (高齢者施設で介護・相談業務、高齢者相談支援事業所で相談支援・地域支援業務に従事)					
[授業の目的]					
1. 地域や施設の現状や課題を知り、その課題について学生自らが主体的に取り組む力を育む。					
2. チーム活動を通じて、協調性とリーダーシップの重要性を学び、リーダーとなれる人材に成長する。					
3. 講義では学ぶことのできない社会の現状や課題を知り、現状への問題意識や批判的な視点を身に付け、社会性を確立する。					
[授業の方法および概要]					
1. チーム活動を円滑に実施するために、ファシリテーションについて学ぶ。					
2. 地域住民や施設職員の思いに共感し、それぞれの現状と課題の聴き取りを行う。					
3. 現状のアセスメントや良質な話し合いを通じて行動計画を学生主体で作成する。					
4. アクションプランを当事者の方々と共有し、可能な限り協働で実施し、課題解決に向かう体験をする。					
5. 実施後の振り返りを通して効果測定を行う。合わせて、他チームとも共有する。					
[授業の到達目標]					
1. ファシリテーションの概要を説明できる。					
2. 関係する人たちの状況や思いを的確に聴き取ることができる。					
3. 聴き取った内容を整理し、課題解決に向かう方向性について話し合える。					
4. 関係する人たちと協力して活動することができる。					
5. 活動の結果を振り返り、まとめることができる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考查点(75%)					
・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累計考查を実施する。					
・ 平常点(25%)					
・ 指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。					

・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
[使用テキスト・参考文献]
[備考]
・実習スケジュールは、チームにより異なる可能性あり。

[授業計画(内容)]	
1～2	オリエンテーション（授業の目的、自己探求、チーム編成・課題の選定、ファシリテーション体験）
3～4	実習先とのマッチング（担当者からの聴き取り、取り組み課題を確定）
5～6	課題解決案・行動目標作成
7～8	行動計画共有ミーティング（実習内容を確定）
9～12	ワクワク地域実習①（行動計画の実施①）
13～16	ワクワク地域実習②（行動計画の実施②）
17～18	中間振り返り（①②の内容の振り返り、意見交換、計画修正など）
19～22	ワクワク地域実習③（行動計画の実施③）
23～26	ワクワク地域実習④（行動計画の実施④）
27～30	ワクワク地域実習⑤（行動計画の実施⑤）
31～32	実習振り返り・全体発表

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
PBL実習（後期）		実習			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 2 年 前期 後期 通年			3 2 回 6 4 時間		
[担当教員および実務経験]					
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事) 和久井 久光 (高齢者施設で介護・相談業務、高齢者相談支援事業所で相談支援・地域支援業務に従事)					
[授業の目的]					
1. 地域や施設の現状や課題を知り、その課題について学生自らが主体的に取り組む力を育む。 2. チーム活動を通じて、協調性とリーダーシップの重要性を学び、リーダーとなれる人材に成長する。 3. 講義では学ぶことのできない社会の現状や課題を知り、現状への問題意識や批判的な視点を身に付け、社会性を確立する。					
[授業の方法および概要]					
1. 地域住民や施設職員の思いに共感し、それぞれの現状と課題の聴き取りを行う。 2. 現状のアセスメントや良質な話し合いを通じて行動計画を学生主体で作成する。 3. アクションプランを当事者の方々と共有し、可能な限り協働で実施し、課題解決に向かう体験をする。 4. 実施後の振り返りを通して効果測定を行う。合わせて、他チームとも共有する。					
[授業の到達目標]					
1. 関係する人たちの状況や思いを的確に聴き取ることができる。 2. 聴き取った内容を整理し、課題解決に向かう方向性について話し合える。 3. 関係する人たちと協力して活動することができる。 4. 活動の結果を振り返り、まとめることができる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累計考查を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					

[備考]

- ・実習スケジュールは、チームにより異なる可能性あり。

[授業計画(内容)]

1～2	オリエンテーション（前期の復習、新チーム編成・課題の設定）
3～4	実習先とのマッチング（担当者からの聴き取り、取り組み課題を確定）
5～6	課題解決案・行動目標作成
7～8	行動計画共有ミーティング（実習内容を確定）
9～12	ワクワク地域実習①（行動計画の実施①）
13～16	ワクワク地域実習②（行動計画の実施②）
17～18	中間振り返り（①②の内容の振り返り、意見交換、計画修正など）
19～22	ワクワク地域実習③（行動計画の実施③）
23～26	ワクワク地域実習④（行動計画の実施④）
27～30	ワクワク地域実習⑤（行動計画の実施⑤）
31～32	実習振り返り・全体発表

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
福祉住環境		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 2 年 前期 後期 通年			5 4 回 1 0 8 時間		
[担当教員および実務経験]					
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)					
[授業の目的]					
福祉住環境コーディネーターとして、高齢者や障害者などの住まいや住環境整備を考える際、対象者の身体機能や生活状況を十分に考慮し、これらの配慮した福祉用具や住宅構造の検討と調整、情報提供などをできること、さらに住環境整備にかかわる家族や専門職間の調整ができることを目指し、必要とされる知識を習得することを目的とする。					
[授業の方法および概要]					
・ 授業前に事前課題を課し、基礎的事項を確認する。 ・ 授業中は、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。 ・ 各章終了ごとに確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。 ・ 検定直前は、複数回の問題演習を通して、知識の定着を図る。					
[授業の到達目標]					
・ 少子高齢社会の現状と課題を説明できる。 ・ 地域社会、社会全体の取り組みの必要性を説明できる。 ・ 日本の住環境の問題点を列挙できる。 ・ 福祉住環境コーディネーターの定義と役割を説明できる。 ・ 高齢者の自立生活を支える介護保険制度を取り巻く状況、今後の課題を説明できる。 ・ 障害者総合支援法のしくみと、今後の障害者福祉施策の方向性を説明できる。 ・ 高齢者の健康と自立の方法（食事の改善、運動の目的と方法）を提案できる。 ・ 障害者が生活の不自由を克服する方法を提案できる。 ・ バリアフリーとユニバーサルデザインの概要を説明できる。 ・ 共用品と福祉用具の定義と役割、導入の留意点を説明できる。 ・ 住まいの整備のための基本技術（段差、床材、手すり、建具、幅・スペース、家具・収納、色彩・照明、インテリア、冷暖房、非常時の対応、維持管理）を説明できる。 ・ 生活行為別（屋外移動・外出、屋内移動、排泄・整容・入浴、清掃・洗濯・調理、起居・就寝）に見る安全・安心・快適な住まいを提案できる。 ・ ライフスタイルの多様化について説明できる。 ・ 安心できる住生活（高齢者、障害者）を提案できる。 ・ 安心して暮らせるまちづくり（諸法制度含む）について説明できる。 ・ 福祉住環境コーディネーター検定試験 3 級に合格できる。					

〔成績評価の方法と基準〕 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 章ごとの確認テスト（全5回：第1章～第5章）の結果を得点化する。 ・ 指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。 ・ 授業に積極的に参加し、検定合格に向けて努力している。
〔使用テキスト・参考文献〕 ・ 『福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト（改訂6版）』 東京商工会議所、2022年
〔備考〕 ・ 第51回福祉住環境コーディネーター検定3級を受験する。(2023年11月27日実施予定)

〔授業計画(内容)〕	
第1章 第1節 少子高齢社会と共生社会への道	
1	人口統計から見た社会構造の変化、高齢者の施策の現状と課題
2	少子化対策の課題と施策の現状①
3	少子化対策の課題と施策の現状②、少子高齢社会の意味
4	ユニバーサル社会の実現の意義
第1章 第2節 福祉住環境整備の重要性・必要性	
5	日本の住環境の問題点
6	福祉住環境コーディネーターとは
第1章 第3節 在宅生活の維持とケアサービス	
7	介護保険制度の考え方、介護保険制度のしくみ①
8	介護保険制度のしくみ②
9	介護保険制度の近年の動向と今後の課題①
10	介護保険制度の近年の動向と今後の課題②、障害者総合支援法について
11	障害者総合支援法のしくみ、障害者総合支援法の近年の動向と今後の課題
12	第1章まとめ：暮らしやすい生活環境をめざして 確認テスト
第2章 第1節 高齢者の健康と自立	
13	健康な一生をおくるために役立つ老化のとりえ方 高齢期の健康度は、自立して暮らせるかどうかが基準
14	元気な高齢者をめざすために必要な食事の改善
15	高齢者の運動の目的と方法
16	高齢者の健康に欠かせないヘルスプロモーションの概念

	自立のレベルごとにみるヘルスプロモーションの実践法
第2章	第2節 障害者が生活の不自由を克服する道
17	障害の種類によって変わってくる自立の方策
	障害に影響を及ぼす種々の要因と自立を阻むもの①
18	障害に影響を及ぼす種々の要因と自立を阻むもの②
	障害をもつ人が充実した在宅生活と社会参加を可能にする要因
19	第2章まとめ：健康と自立をめざして 確認テスト
第3章	第1節 バリアフリーとユニバーサルデザインを考える
20	バリアフリーの誕生と考え方、ユニバーサルデザインの誕生
21	ユニバーサルデザインの考え方、わが国での取り組み
22	ユニバーサルデザインとこれからの社会
第3章	第2節 生活を支えるさまざまな用具
23	生活のなかの問題点と用具の活用
24	共用品①（共用品の定義、共用品の具体例）
25	共用品②（開発から普及までのプロセス、普及標準化に向けて）
26	福祉用具①（福祉用具の定義と役割①）
27	福祉用具②（福祉用具の定義と役割②）
28	福祉用具③（福祉用具の分類）
29	福祉用具④（福祉用具導入の留意点）
30	福祉用具⑤（福祉用具の活用のために）
31	第3章まとめ：バリアフリーとユニバーサルデザイン 確認テスト
第4章	第1節 住まいの整備のための基本技術
32	安全・安心・快適な住まい、段差、床材
33	手すり、建具、幅・スペース
34	家具・収納、色彩・照明、インテリア
35	冷暖房、非常時の対応、維持管理（メンテナンス）
第4章	第2節 生活行為別に見る安全・安心・快適な住まい
36	生活に即した安全・安心・快適な住まい、屋外移動・外出
37	屋内移動（廊下、階段）
38	排泄・整容・入浴
39	清掃・洗濯、調理、起居・就寝①
40	起居・就寝②、妊婦・子どもに対する配慮
41	第4章まとめ：安全・安心・快適な住まい 確認テスト
第5章	第1節 ライフスタイルの多様化と住まい
42	家族形態の多様化と住まい方、暮らし方の多様化
43	生活の継続性と環境への適応力
44	高齢期の多様な住まい方
第5章	第2節 安心できる住生活

45	高齢者や障害者が安心して暮らせる住宅・住環境整備
46	少子化社会に対応した住宅・住環境整備
47	安心で豊かな生活の実現に向けて
第5章	第3節 安心して暮らせるまちづくり
48	人にやさしいまちづくり
49	まちづくりを進めるための諸法制度
50	第5章まとめ：安心できる住生活とまちづくり 確認テスト
51	福祉住環境コーディネーター検定3級 問題演習①
52	福祉住環境コーディネーター検定3級 問題演習②
53	福祉住環境コーディネーター検定3級 問題演習③
54	終末考査

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]	[授業形態]	必修 選択
福祉ボランティア	実習	
[対象学科・学年・時期]	[授業回数・時間数]	
社会福祉科 2 年 前期	30 回 60 時間	
[担当教員および実務経験]		
渡辺 康子 病院・高齢者施設において介護職員として 11.5 年勤務		
[授業の目的]		
多岐に渡る福祉の現場での体験を通し、実践力を身につけると同時に就職活動時の職場選びに役立てる。		
[授業の方法および概要]		
毎週 1 度 2 時間以上のボランティアを繰り返し行うことで、福祉現場の実情を体験を通して学び、まとめることができる。		
[授業の到達目標]		
・ ボランティア先の事業概要を説明できる。 ・ 社会において事業所やソーシャルワーカーに求められる役割を理解できる。 ・ 自身のボランティア計画を立て、目標達成に向け取り組むことができる。		
[成績評価の方法と基準]		
教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ ボランティア内容の共有とまとめレポートについて、その内容を得点化する。 ・ 平常点 (10%) ・ 積極的に参加し、学びを深めながら自らの向上を図っている。 ・ 出席点 (15%)		
[使用テキスト・参考文献]		
なし		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
1	前期オリエンテーション（福祉ボランティアの目的、流れ）
2	〃
3	行先調査・アポイントメント
4	〃
5	行先調査・アポイントメント
6	〃
7	ボランティア活動（活動を通じた福祉現場の学び）
8	〃
9	ボランティア活動（目的、目標に沿った取組）
10	〃
11	ボランティア活動（目的、目標の達成への考察）
12	〃
13	ボランティア活動（目的、目標達成のための計画）
14	〃
15	ボランティア活動（目的、目標達成の計画実施）
16	〃
17	ボランティア活動（実施状況のモニタリング）
18	〃
19	ボランティア活動（計画の修正、変更）
20	〃
21	ボランティア活動（計画実施）
22	〃
23	ボランティア活動（実施状況のモニタリング、計画の修正、変更）
24	〃
25	ボランティア活動（計画実施）
26	〃
27	ボランティア活動（計画評価）
28	〃
29	考査（ボランティア体験まとめ）
30	〃

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名]	[授業形態]	必修 選択
福祉ボランティア	実習	
[対象学科・学年・時期]	[授業回数・時間数]	
社会福祉科 2 年 後期	30 回 60 時間	
[担当教員および実務経験]		
渡辺 康子 病院・高齢者施設において介護職員として 11.5 年勤務		
[授業の目的]		
多岐に渡る福祉の現場での体験を通し、実践力を身につけると同時に就職活動時の職場選びに役立てる。		
[授業の方法および概要]		
毎週 1 度 2 時間以上のボランティアを繰り返し行うことで、福祉現場の実情を体験を通して学び、まとめることができる。		
[授業の到達目標]		
・ ボランティア先の事業概要を説明できる。 ・ 社会において事業所やソーシャルワーカーに求められる役割を理解できる。 ・ 自身のボランティア計画を立て、目標達成に向け取り組むことができる。		
[成績評価の方法と基準]		
教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ ボランティア内容の共有とまとめレポートについて、その内容を得点化する。 ・ 平常点 (10%) ・ 積極的に参加し、学びを深めながら自らの向上を図っている。 ・ 出席点 (15%)		
[使用テキスト・参考文献]		
なし		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
1	後期オリエンテーション（福祉ボランティアの目的、流れ）
2	〃
3	行先調査・アポイントメント
4	〃
5	行先調査・アポイントメント
6	〃
7	ボランティア活動（活動を通じた福祉現場の学び）
8	〃
9	ボランティア活動（目的、目標に沿った取組）
10	〃
11	ボランティア活動（目的、目標の達成への考察）
12	〃
13	ボランティア活動（目的、目標達成のための計画）
14	〃
15	ボランティア活動（目的、目標達成の計画実施）
16	〃
17	ボランティア活動（実施状況のモニタリング）
18	〃
19	ボランティア活動（計画の修正、変更）
20	〃
21	ボランティア活動（計画実施）
22	〃
23	ボランティア活動（実施状況のモニタリング、計画の修正、変更）
24	〃
25	ボランティア活動（計画実施）
26	〃
27	ボランティア活動（計画評価）
28	〃
29	考査（ボランティア体験まとめ）
30	〃

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] レポート指導（前期）		[授業形態] 講義		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 社会福祉科 2年 前期 後期 通年			[授業回数・時間数] 5 6 回 1 1 2 時間		
[担当教員および実務経験] 星野和幸・渡辺康子・白倉啓子・櫛野友則・圓山里子					
[授業の目的] ソーシャルワークの専門職である社会福祉士に必要とされる知識を獲得するために、東北福祉大学通信教育部の規定に基づき、社会福祉士養成課程の指定科目の単位修得を目指す。					
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、指定科目の客観式レポート課題及び記述式レポート課題の作成を進める。必要に応じて、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。					
[授業の到達目標] ・ 指定科目のレポート課題を期限までに作成、提出することができる。 ・ 個々の指定科目について、その科目を修得したと認められる事項を説明できる。					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、指定科目のレポート課題の状況について、ルーブリックによる期末考査を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 大学のレポート課題を期限までに提出している。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献] ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 11 ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版、2021年 ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 8 障害者福祉』中央法規出版、2021年 ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 3 社会学と社会システム』中央法規出版、2021年 ・ 福祉臨床シリーズ編集委員会編『新・社会福祉士シリーズ15 児童・家庭福祉』弘文堂、2022年					

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕2 高齢者福祉』 中央法規出版、2021年
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕13 ソーシャルワーク演習（共通科目）』 中央法規出版、2021年
- ・小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著『現代と未来をつなぐ見地からの心理学（改訂版）』 八千代出版、2019年

〔備考〕

〔授業計画（内容）〕

コマ数	授業の内容
1～4	ソーシャルワークの基盤と専門職 客観式レポート作成指導
5～8	ソーシャルワークの基盤と専門職 記述式レポート作成指導
9～12	障害者福祉 客観式レポート作成指導
13～16	障害者福祉 記述式レポート作成指導
17～20	社会学と社会システム 客観式レポート作成指導
21～24	社会学と社会システム 記述式レポート作成指導
25～28	児童・家庭福祉 客観式レポート作成指導
29～32	児童・家庭福祉 記述式レポート作成指導
33～36	高齢者福祉 客観式レポート作成指導
37～40	高齢者福祉 記述式レポート作成指導
41～44	ソーシャルワーク演習 スクリーニング事前レポート作成指導
45～48	ソーシャルワーク演習 スクリーニング事後レポート作成指導
49～52	福祉心理学 客観式レポート作成指導
53～56	福祉心理学 記述式レポート作成指導

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
レポート指導（後期）		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
社会福祉科 2年 前期 後期 通年			30回 60時間		
[担当教員および実務経験]					
星野和幸・圓山里子					
[授業の目的]					
ソーシャルワークの専門職である社会福祉士に必要とされる知識を獲得するために、東北福祉大学通信教育部の規定に基づき、社会福祉士養成課程の指定科目の単位修得を目指す。					
[授業の方法および概要]					
到達目標に沿って、指定科目の客観式レポート課題及び記述式レポート課題の作成を進める。必要に応じて、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。					
[授業の到達目標]					
・ 指定科目のレポート課題を期限までに作成、提出することができる。					
・ 個々の指定科目について、その科目を修得したと認められる事項を説明できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。					
・ 考查点(75%)					
・ 到達目標の修得状況を測るために、指定科目のレポート課題の状況について、ルーブリックによる期末考查を実施する。					
・ 平常点(25%)					
・ 大学のレポート課題を期限までに提出している。					
・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕11ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』、中央法規出版、2021年					
・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕4 社会福祉の原理と政策』中央法規出版、2021年					
[備考]					

[授業計画(内容)]

コマ数	授業の内容
1～6	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門） 客観式レポート作成指導
7～14	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門） 記述式レポート作成指導
15～20	社会福祉原論A 客観式レポート作成指導
21～28	社会福祉原論A 記述式レポート作成指導
29～30	まとめ（1年間で作成したレポートの振り返り）

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
メンタルヘルス		講義			
[対象学科・学年・時期]				[授業回数・時間数]	
社会福祉科 2年 前期 後期 通年				30回 60時間	
[担当教員および実務経験]					
白倉 啓子 (高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事)					
[授業の目的]					
・最近社会問題となっている職場におけるメンタルヘルスケアの問題について、メンタルヘルスケアおよびストレスの知識、対処方法を学ぶ。 ・大阪商工会議所「メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅲ種」の合格を目指す。					
[授業の方法および概要]					
・授業前に事前課題を課し、基礎的事項を確認する。 ・授業中は、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。 ・各章終了ごとに確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。 ・検定直前は、複数回の問題演習を通して、知識の定着を図る。					
[授業の到達目標]					
・労働者のストレスの現状と職場におけるメンタルヘルスケアについて理解できる。 ・ストレスとストレスによる健康障害について説明することができる。 ・メンタルヘルス不調の代表的な症状について説明することができる。 ・心の健康問題についての正しい知識を説明できる。 ・自己保健義務、気づき方、早期対処、軽減方法等、自分自身のメンタルヘルスを守る知識について説明することができる。 ・相談機関等、利用できる資源・職種について説明することができる。 ・メンタルヘルスの治療方法および留意点について説明することができる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・考查点(75%) ・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・平常点(25%) ・授業に積極的に参加し、検定合格に向けて努力している。					
[使用テキスト・参考文献]					
・大阪商工会議所『メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキスト〔第5版〕Ⅲ種 セルフケアコース』中央経済社、2021年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	第1章 メンタルヘルスケアの意義①
2	第1章 メンタルヘルスケアの意義②
3	第2章 ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識①
4	第2章 ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識②
5	第2章 ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識③
6	第2章 ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識④
7	第3章 セルフケアの重要性①
8	第3章 セルフケアの重要性②
9	第4章 ストレスへの気づき方①
10	第4章 ストレスへの気づき方②
11	第4章 ストレスへの気づき方③
12	第5章 ストレスへの対処、軽減の方法①
13	第5章 ストレスへの対処、軽減の方法②
14	第5章 ストレスへの対処、軽減の方法③
15	第5章 ストレスへの対処、軽減の方法④
16	第5章 ストレスへの対処、軽減の方法⑤
17	第6章 社内外資源の活用①
18	第6章 社内外資源の活用②
19	第6章 社内外資源の活用③
20	第6章 社内外資源の活用④
21	第1章まとめ：メンタルヘルスケアの意義 確認テスト
22	第2章まとめ：ストレスおよびメンテナンに関する基礎知識 確認テスト
23	第3章まとめ：セルフケアの重要性 確認テスト
24	第4章まとめ：ストレスへの気づき方 確認テスト
25	第5章まとめ：ストレスへの対処、軽減の方法 確認テスト
26	第6章まとめ：社内外資源の活用 確認テスト
27	問題演習①
28	問題演習②
29	問題演習③
30	期末考査

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 総合復習		[授業形態] 講義		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 社会福祉科 2年 前期 後期 通年				[授業回数・時間数] 15回 30時間	
[担当教員および実務経験] 櫛野 友則					
[授業の目的] 2年間で学んだ教科を中心に国家試験に関わる基礎的知識の習得を目指す。					
[授業の方法および概要] 到達目標に沿って、グループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標] ・ 次の各項目について国試の受験科目の必要な知識を習得できる。 ①社会福祉 ②高齢者福祉 ③障害者福祉 ④児童・家庭福祉 ⑤虐待 ⑥心理 ⑦ソーシャルワーク					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献] ・ いう総研資格取得支援センター編『社会福祉国試ナビ2024』中央法規・2023年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	社会福祉（社会福祉法）
2	高齢者福祉①（老人福祉法）
3	障害者福祉①（障害者の定義、障害者基本法をはじめとする各種法律）
4	児童・家庭福祉①（児童福祉法、子ども・子育て支援法）
5	高齢者福祉②（介護保険法①：保険者、被保険者、要介護認定）
6	高齢者福祉③（介護保険法②：保険給付、地域支援事業）

7	障害者福祉②（障害者総合支援法）
8	児童・家庭福祉②（母子及び父子並びに寡婦福祉法）
9	虐待①（高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法）
10	虐待②（児童虐待防止法、配偶者暴力防止法）
11	心理①（学習、記憶、欲求・動機、ストレス）
12	ソーシャルワーク①（社会福祉士の定義、相談援助の理論）
13	心理②（適応機制、心理療法）
14	ソーシャルワーク②（ソーシャルワークの歴史）
15	授業のまとめ（期末考査対策）